

以上各委員会の委員が中心となって行ってきました。

平成13年は引き続き、

- クリティカルパスを作る
- 看護過程が展開でき、看護過程にそった記録ができる
- 情報開示にむけた看護記録となるよう、記録内容を充実させる
- 標準看護計画を作る
- 長野で開催される自病協の学会で研究発表ができる

ことを目標として、病棟運営を行っていききたいと思います。

5階西病棟は、10月に主任が変わりました。1ヶ月のうち3日間は、午前中フリーでいます。この時間に主任には、看護計画や看護記録に目を通してもらい、スタッフを指導してもらいたいと思います。

また、去年は看護協会その他の研修に多くのスタッフを出させていただきました。許可していただいた看護部に感謝すると共に、今年も勉強するという意欲が損なわれないような環境作りをしていきたいと思います。

今後も、患者様中心の看護を患者さまを通して共に学び、スタッフ全員が支えあって良い職場作りをしていきたいと思います。

---

## 主任として

5階西病棟主任 養 島 真由美

---

主任として3ヶ月が過ぎました。今まで主任の仕事を見て、婦長代行や後輩の相談、指導など責任の重さを強く感じ大変だなと思っていました。しかしいざ自分がとなると、主任という責任の重さに自信がなく、今後どう行動していったらいいのか戸惑いの日々でした。そんななか初めて婦長代行業務についた時、入院患者様の部屋がない、転倒などの事故や細かな問題が発生し、その対応に戸惑い患者様やスタッフに迷惑をかけてしまいました。今まではすべて婦長や主任に任せて、自分で判断していなかったことをとても反省させられたと同時に、もっと自信を持った判断が出来るようにならなくてはと痛感しました。

主任になってからいろいろな会議に出席するようになり、新しい発見があり勉強になる反面、今までスタッフとして何もわかっていない自分が情けなくも思いました。まだまだ未熟な自分にとって、今何が必要なのかを考える良い機会となり、まずは、いろいろなことに参加し、見て聞いてわ

からないことはわかるまで追求していく姿勢を持ち、ひとつでも自信がもてるものを見つけて行くことが大切だと思いました。

『主任のお仕事』（大島敏子著）という本に理想の主任像が書かれていました。

1. 病棟目標にむかってスタッフと一緒に頑張り、リーダーシップをとってくれる人。
2. 患者様とのかかわりで悩んでいるスタッフに、前向きに患者様と接していけるような適切なアドバイスを与えてくれる人。
3. スタッフの性格や考え方を理解できる能力と広い心をもっている人。
4. いつも冷静に物事を見極められる人。
5. 技術面や学術面でスタッフの指導が出来る人。

今後の目標として、ここに挙げた主任像に少しでも近づいて行けるように、患者様、婦長、スタッフの皆様に教えてもらいながら頑張っていきたいと思っています。